

2020年度9月卒業式 式辞

2020年9月18日

中京大学学長 安村 仁志

皆さん、卒業おめでとうございます。また、学びを支え、ご出席くださいましたご家族の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。三月の卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大のためWEB式となりましたので、本日直にお会いして卒業式を行うことができますことは大変うれしいと思っております。

今年は年明けから、新型の感染症があつという間に全世界に広がり、私たちの生活は一変し、学校・大学を含めて社会の諸活動が大きく制限されました。全く予期しないことでした。《自粛》や《活動禁止》といったことが、経験したことがないだけに、戸惑い・不安をかきたて、大学でも当たり前だった通学して友人と一緒に授業を受け、課外活動を楽しむことができなくなりました。新入生は大学に一度も来ることなく、毎日自宅でパソコンに向かって授業を受ける状態でした。皆さん方においてもオンライン面接等就活の面などで苦勞されたかと思えます。秋学期は、大学に来て学びたいとの学生の皆さんの思いを大事にして基本通学対面授業にして来週月曜日から始めることとなります。

そういう状況の下で皆さんは卒業し、次のステップに歩いていかれるわけですが、のちに振り返ってみるときこの二〇二〇年という年は深く記憶に残るこ

とになるでしょう。その意味では、まだ終わろうとしていないコロナ禍に自分がどのように対応したかが今後の人生にとって重要なことになると思います。

われわれには、大なり小なり、突然考えてもみなかったことに遭遇して厳しい状況におかれ、つらい思いを強いられることがあります。しかし、私はそれらにはそれぞれ意味があると思っています。私自身これまでの人生を振り返ってみても、あの時、あのことがなかったら今の私はないと思わされることがあります。その時は、「なんで今？、この私に？」「どうしてこんなことが？」と思い、つらい思いをいたしました。周りの人から助けをいただきながら、自分でもまず目の前のことをしっかりやろうと心に決め、一步一步歩を進めていったことを思います。その結果、あの苦難も新しい歩みの力となったと感ずることができ、あのことにも意味があったのだと気づくことができたように思います。

英語のことわざに“**Adversity makes a man wise.**”(逆境は人を賢明にする)というのがあります。“**Storms make oaks take deeper root.**”(嵐は、樫の木に、いっそう深い根を張らせる)といった表現もあります。日本語では『艱難汝を玉にす』といいます。見えない・聞こえない・話せないという三重苦を背負いながら乗り越えた彼のヘレン・ケラーさんはこんなことばを残しています。“**Character cannot be developed in ease and quiet.** (人格は平静の中では作られない)。**Only through experience of trial and suffering** (試練や苦難を経験してこそ)、**can the**

soul be strengthened, (魂は強くなり)、**ambition inspired** (大志は燃え)、**and success achieved** (成功は成し遂げられる)”と。こんなに立派なことは言えなくても、私たちは現在の艱難から練られていきます。

皆さんはこれからの時代を生きていく人たちです。重荷としてではなく、新しい課題に挑んでいくチャレンジのうちに生きていってください。大学は常に皆さんを応援します。中京大学は、常にいつでもみなさんが立ち寄ることのできる母港、最古の大学の一つボローニャ大学の標語でもある **Alma Mater Studiorum**(学びを養ってくれた母、母校)です。いつでも皆さんのうちにある存在です。

その母校たる中京大学について大切なことを改めて心に止めていただければと思います。中京大学は一九五四年に短期大学として開学しました。従って二〇二四年に七〇周年を迎えます。開学二年後に四年制となり、最初商学部の一学部から時代のニーズに先駆けて学部を増設・改組して増やし、現在は約一二〇〇〇人の学生が学ぶ十学部から成る文理総合大学となっています。卒業生は一四万人に及ぼうとしています。『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ』との建学の精神のもと、学術の研鑽に努めるとともにジェントルマンシップ・レディシップを身につけること、また健康の増進・心技の練成とともにスポーツマンシップの体得を目指すのがこの大学であります。そして四つの指針「ルールを守る」「ベス

トを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意をもつ」を具体的な目標として掲げています。これは時代を超え、世界のどこでも通じる普遍的なものだと私自身も思っています。皆さんはこうしたDNAを受け継いでいます。

最後に私からの小さなプレゼントを贈ります。少しでも心にとめていただければ幸いです。私自身大切にしたいと思っている三つの語です。信じるの「信」、望みをもつ「望」、そして愛する・大事にするの「愛」、この三つの文字です。何か自分で信じるものがあれば、それが支えてくれますから一人ではなくなります。望みがあれば、生きる力につながっていきます。そして、愛するもの、大事にするもの、大好きなものがあれば心が元気になります。あとで心に留めていただければと思います。

もう一度申し上げます。中京大学は皆さんの故郷としていつでもともにある母なる学び舎 母校、いつでも立ち寄れる母なる港 母港です。

本日はおめでとうございます。これからのご健闘を心からお祈りいたします。